【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成25年8月29日(2013.8.29)

【公開番号】特開2012-107986(P2012-107986A)
【公開日】平成24年6月7日(2012.6.7)
【年通号数】公開・登録公報2012-022
【出願番号】特願2010-257010(P2010-257010)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　27/416　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　27/26　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　31/16　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　31/00　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/18　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　21/80　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　27/46　３５３
Ｇ０１Ｎ　27/26　３７１Ａ
Ｇ０１Ｎ　27/26　３８１Ａ
Ｇ０１Ｎ　27/26　３７１Ｂ
Ｇ０１Ｎ　31/16
Ｇ０１Ｎ　31/00　Ｂ
Ｇ０１Ｎ　33/18　Ｚ
Ｇ０１Ｎ　21/80

【手続補正書】
【提出日】平成25年7月11日(2013.7.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４４】
次に、本発明に係るｐＨの測定方法（以下、単に測定方法と称すことがある）について説明する。なお、本発明に係る測定方法は、例えば、図１に示すような装置構成により実現される。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４５】
図１は、本発明に係る測定方法を用いた測定装置（以下、単に装置と称すことがある）の概略図である。図１に示すように、装置は、一例として、電圧計１（電位差計と称すこともある）に、ｐＨガラス電極２（pH glass electrode）および比較電極３(reference electrode)が接続されている。なお、図１に示した装置は、いわゆるガラス電極法と言われ、ｐＨガラス電極２および比較電極３は測定溶液(sample)に浸され、これら電極の間に生じた電圧（電位差）を測定することにより後述する処理手段が上記測定溶液のｐＨを算出する。なお、図１に示す測定溶液は、特に断りのない限り、一例として、海水であると仮に想定して、以下説明する。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１６７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１６７】
ここで、ある波長λ_1および波長λ_2における非解離形(HA)および解離形(A^-)のモル吸光係数をそれぞれ${}_1\varepsilon_{HA}$、${}_1\varepsilon_{A^-}$、${}_2\varepsilon_{HA}$、${}_2\varepsilon_{A^-}$とする。そして、光路長（具体的には、海水を含む容器の長さ）をＬとすれば、ある波長λ_1および波長λ_2における測定溶液の吸光度Abs_1およびAbs_2は、それぞれ以下の式（３９）および式（４０）で表すことができる。